

## 131 No. 11: 製造業を取り巻く環境変化～中国華南【情報共有し、事業支援へ】

(平成 30 年 10 月)

「最近、御社のコンデンサー部品の調達状況はどうですか？」当事務所が広東省にある取引先を訪問する際、よく話題となる内容である。コンデンサーは電気を蓄える電子部品で、特に積層セラミックコンデンサー（MLCC）の供給が逼迫している。

電気自動車の普及による影響が強いと言われている。中でも、全世界の自動車販売台数の約 3 割を占める中国が、新エネルギー自動車の普及を一気に進めているため、それらの電子制御系の部品に使用されるコンデンサーの需給の逼迫が続いている。MLCC で世界トップの村田製作所をはじめ、主要メーカー各社は、設備投資を行い、生産能力の増強を急いでいるが、現場での供給は間に合っていない。

中国華南地区は、電子機器関連メーカーが多く、進出する日系メーカーも影響を受けている。コンデンサー部品の発注しても 6 ヶ月以上先の納品となることも多いようだ。そのため、「調達先の変更」や「納期の延期」など生産計画（ひいては売上予算）の変更を余儀なくされている企業もある。

他方で、環境規制についての話題も多い。「塗装業者（外注先）が（中国政府からの事業継続許可が下りないため）3 ヶ月後には事業を停止してしまうようだ。どこか他の取引先に外注をお願いしないと」といった内容だ。

中国政府は、環境規制を強化し、中には日本よりも厳しい規制項目もある。そのため、規制対象となった企業が操業停止となった際、サプライチェーン（企業間の原材料調達・生産・物流・販売）に影響してしまう。

いずれの事例も自社ではコントロールしにくい現地特有の事情である。当事務所では、現地の取引先への訪問時に、最近の業況やトピックスなどについて情報交換をしている。上記のような内容に対しては、「生産計画の変更」や「外注先の変更」などの理由を現地の実情を交え、日本へ丁寧に情報還元することで、取引先の日本本社と足利銀行の営業担当者が情報共有を深め、進出企業が当地で円滑に事業を展開できるよう、活動していきたい。

コンデンサー製造大手企業の動向

	コンデンサー製造関連動向	コンデンサー部門売上
村田製作所	フィリピン、福井県に新工場設立を計画	4,498億円（2018/3期） （前期比21.7%増）
サムスン電機	車載用の製品ラインを充実させ、海外工場の生産性を強化	2,337億円(*)（2017/12期） （前期比21.2%増）
太陽誘電	子会社の新潟太陽誘電を通じて新工場設立を計画	1,428億円（2018/3期） （前期比21.4%増）

\*コンポネントソリューション事業部門売上（1韓国ウォンを0.1円として換算）。  
各社IR資料を基に、香港駐在員事務所にて作成。